



朝揚げば……新山

# 世羅高 同窓会会報

発行  
広島県立世羅高等学校  
同窓会報編集委員会  
世羅郡世羅町本郷870番地

## 第二号発刊によせて



同窓会長 小島 敏文

同窓会報第二号の発刊にあたり、ご挨拶を申し上げます。

会員の皆様方には、本会の運営につきまして、日頃格別のご理解とご協力を頂いているところでございます。まして、そのご苦勞に対し、厚くお礼申し上げます。

さて、二十一世紀の扉が、間もなく開こうとしており、多くの方々が新しい世紀の広島県教育・世羅高等学校の教育のゆくすえについて、様々な思いを馳せておられることと思います。広島県は、平成十年五月に全国でも前例のない文部省是正指導を受けたことは、皆様ご承知の通りであります。文部省是正指導は、卒業式・入学式の国旗掲揚・国歌斉唱や人権学習などの教育内容関係で七項目、教員の勤務および勤務時間管理や主任等の命課(任命)の時期および、適格者の人選などの学校管理運営

関係で六項目、計十三項目と多岐に渡っており、正に教育の基盤から構築し直さなければ、広島県教育の復興はあり得ないという状況でありました。県教育委員会では、辰野教育長が先頭に立たれて懸命の努力をされ、一定の成果が上がっており、今年度が是正指導総仕上げの年であるとされております。しかし、この間の取り組みは決して平坦ではなく、とりわけ故石川校長先生が尊い命を自ら絶たれたことの重さは永遠に忘れてはならないと思うのであります。

是正指導三年目となる今年度は「県民に信頼される公教育」を実現するため、最重要課題ともいえる「教育の中立性の確保」の観点から、大きな二点の改善が行われました。一点目は同和教育が全ての教育活動や法令に優先するという「同和教育基底論」を改め、法規・法令に基づく教育活動の推進の方向性を明確にされたことです。二点目は九月、県議会本会議において知事・教育長の答弁という形で運動団体の教育介入を誘発する根拠となつていると指摘されていた、いわゆる「八者合意文書」を事実上破棄し特定の運動団体の影響を排除したことです。そのことにより公教育の基本が県民から見て非常に明確なものとなりました。平成十四年度からは、完全学校週五日制とそれに応じた新学習指導要項の全面实施という教育界に

おける大きな転換期を迎えることとなり、いま助走期間が始まっております。

生徒・保護者・地域住民の期待に応え得る学校となる為には、何よりも校長先生が明確な教育理念と強力なリーダーシップを持って全校職員が一致協力し、学校が組織として機能することが肝要であります。幸いにして本校におきましては、田邊康嗣校長先生の明確な教育理念即ち①学力をつける事(三年間を見通した計画的な進路指導)②生活指導を徹底する事③スポーツ・文化活動の活性化 これらの徹底を図れば生徒は自ずと世羅高校に集まって来る、併せて地域の発展に貢献できる学校づくりを推進していきたいとの強い信念と強力なリーダーシップのもと、先生方が世羅高校の将来構想について全国の高校の取り組みを視察されるなど、今迄にない積極的な取り組みが見られます。又、生徒たちも落ち着きを取り戻し、勉学に励んでおり世羅高校は着実に変わりつつある事を実感しております。近い将来地域の期待に応える魅力ある世羅高校として蘇ることを確信し、会員の皆様の今後一層のご支援ご協力をお願い申し上げます。同窓会報を以て広島県教育並びに本校教育の現状をご報告申し上げますと共に、皆様の益々のご発展を祈念申し上げます。ご挨拶と致します。



# 21世紀を生き抜く

## 将来ビジョン



校長 田邊 康嗣

2001年世羅郡内と周辺の大和町、久井町の中学校の卒業予定生徒は40人で、2007年には285人に大幅減少します。こうした厳しい状況の中で世羅高等学校が生き残っていくためには、相当に厳しいサバイバルな競争に勝ち残らなければいけません。

世羅高等学校では21世紀を生き抜くための将来ビジョンを策定しているところであり、先日の職員会議で基本的な方針についての共通理解を得ました。

①世羅台地の地域を生かした特色ある教育、特色ある高校づくりを進める。②豊かな人間性や社会性、国際社会に生きる人材を育成する。③生きる力を育成する。④基礎・基本の確実な定着を図る。⑤情報化社会に対応した人材を育成する。⑥専門性、総合性を生かした教育内容を創る。以上の6項目の基本方針を確認しました。

さらに、こうした基本方針のもとに、①国際社会を生き抜くための知識・教養を身につける。

②生産から流通までの知識技術を身に付ける。③自然と人間の共存のもとに行われる保全技術、利用技術を身につける。④福祉マインドをもって安心して生活していける社会の創造とヒューマンケアの知識技術を身につける。以上の4つの目標とすべき生徒像を設定しました。

この目標を達成するための具体的な取組みの1番目の柱として、まず2学期制・7時間授業(45分)を実施します。21世紀は産業や経済のみならず文化の面においても国際化が一層推進されます。たとえばIT革命に見られるように産業の高度化やグローバル化が急速に推進されます。こうした21世紀の変化に対応するために、海外の高等学校との交流や留学を容易にしたり、基礎・基本の徹底や専門性の追求を図るための基盤整備を行う観点から2学期制・7時間授業(45分)が必要であります。

2番目の柱として総合選択制の導入を行います。21世紀は生徒の個性化や多様化が一層進むものと思います。こうした生徒の多様なニーズに応えるためには、普通科と専門学科、専門学科間の転科ができるようにしたり、普通科の生徒が専門学科の授業を選択したり、また逆に専門学科の生徒が普通科の授業が選択できるような柔軟なシステムが必要で、また、たとえば情報処理や国際理解を中心に

した世羅学などの共通履修科目を設け、世羅高校の生徒が共通に履修したり、生徒が生徒それぞれの自由意志で参加できる奉仕活動の科目を設けたりするなど、多様な選択ができる柔軟なシステムや教育課程を設けることが必要です。

3番目の柱として、技術革新や経済のソフト化がもたらす「知」の競争に耐え、21世紀の世界の発展に貢献できる人材をそだてる教育内容の創造が必要です。そのためには、進路探求科や地域福祉科、緑の地球科、環境テクノロジー科を設けたりするなど時代や地域のニーズに応える学科やコースを設置することが必要です。また、大学や専門機関との連携を図ったり、スペシャリストバンクを設置して地域の専門家を活用するなど指導方法の改善を図ることも大切です。

現在、こうした教育内容の創造を図るために広島県立世羅高等学校将来構想(案)をつくり広島県教育委員会に理解と協力・支援をお願いしているところです。また、12月には世羅高等学校未来デザイン会議を開催し、保護者や同窓会、地域や関係機関の方々幅広い意見をいただいてこの将来構想の具現の内容の充実を図るとともに実現に向けての広範なご支援をいただきますようお願いいたします。

# 「育てる会」の一年余



「育てる会」会長 松山 理人

昨年八月末、世羅・甲山両町の行政・教育の関係者と中高PTTAを中心に、地域に信頼される高校を目指す支援体制を確立するため「世羅高を育てる会」が組織され、不肖私が地元町ということで会長を引受けることとなりました。

爾来、中高PTTA連絡会や役員会を経て、教育講演会や世羅高の教育条件充実の要望活動等を行ってまいりました。その結果、地域やPTTA関係者の間で世羅高校を立派に再生させねばという気運が次第に盛り上がって来りました。

一方、県教委においても冀北寮の増改築や一部グラウンドの整備を予算化して頂きました。昨年十二月の「古里ふれあい演奏会」(せら文化センター)には約五百人の参加があり、世羅高吹奏楽部と県警音楽隊との合同コンサートは参加者に深い感銘を与えました。

私自身も時間の許す限り、文化祭や体育祭などの行事に参加しておりますが、今年の生徒は昨年とは大きく変わったように思います。体育祭一つ例にとっても、今年の体育祭は生徒と職員のコンプもよ

く格段の充実を感じました。いま、「育てる会」の目指している方向は、生徒・保護者・地域の人々にとって「学びたい学校」、「学びせたい学校」にすること、教育内容や教育活動の充実・向上を図ることを基本に、そのための条件整備・充実を支援していくことです。

少し前、ある会で、県教育長と出席し、若干の意見交換をする機会がありました。県教委としても世羅高のこの一年間の向上努力を高く評価し教育長から「世羅高はよくなりましたねー。だんだんよくなつていくのがわかります。」と言われ感激しました。我々はこの力を緩めず、皆さんと共に一層の協力・支援をして行かなければならないと思います。

本年度は入試制度の改革があり、また、将来の少子化傾向が顕著になり、充実した特色ある高校でなければ存立そのものが危うくなることも考えられます。先月行われた本年第二回の役員会では二十一世紀の世羅高のビジョンをまとめるため、「育てる会」会則を改正し、役員の中に専門部会を設け、本校の将来構想について検討し意見をまとめることとしました。

「災いを転じて福となす」の諺のように、將に世羅高の再生が達成され、同じように悩める全国の公立高校の範となるため今後も組織をあげ頑張りたいと思います。



# 学校の現状

## 生徒会

新しい千年紀である二〇〇〇年度を迎え、世羅高校の生徒たちは学習活動と両立させ日々、生徒会やクラブ活動に一生懸命励んでいます。

生徒会は、生徒の自主的な活動を通じて、学校生活の充実や向上をめざして、定期的には土曜日の一限目を利用して活動しています。具体的には、各種行事の準備やクラブの県大会等の出場にともなう壮行式などを行います。これまでの先輩たちが作り上げてきたものに更なる工夫を交え、また新しい企画を試みながら計画を立てています。生徒の自主的・実践的な活動を踏まえ、顧問は生徒の活動を見守り、助言をしています。

今年度はボランティア精神を培う観点から、従来も行ってきたクリーン大作戦を更に充実させようとして取り組んでいます。クリーン大作戦は、保健委員会とも連携し、全校生徒が校外各所へ出て、空き缶拾いなどの美化活動を行う活動で学期に一回の割合で行っています。その活動を通じて、地域の方々の支援があつて学校生活を送っていることを確認するとともに、自発的に社会に貢献できる人間になつてもらいたいと願っています。



グリーン大作戦 (葉ボタン配布)

また、生徒会本部は様々な生徒会行事を計画し、各委員会と連携を図りながらその成功に尽力しています。その行事の一つである体育祭を十月一日に開催しました。体育祭は体育委員会を中心に創りあげていきます。しかし、過去二年、体育祭は雨による中止や途中で打ち切りに泣かされ続けてきました。そのため、体育祭の全容を経験したことのない三年生を中心とした委員会の生徒たちは九月に入ってから暗中模索の状態で作画を立ててきました。その中で顧問は「逆に言えば、君たちのオリジナリティが出しやす状況にある」と助言をしたのですが、生徒たちは一生懸命活動してくれました。体育祭当日は、前日の雨を吹き飛ばすほどの晴天に恵まれ、PTAの方々も競技に積極的に参加して下さり、三年ぶりに行事をこなすことができました。閉会式後、委員会の生徒たちは充実した達成感

からか涙を流しており、私たち顧問は彼らの姿を見ながら、生徒たちに感謝し、そして新たな活動を生徒と共に創りあげていこうと決意を新たにしています。

今年度、世羅高校に一九九名の新入生が入学しました。今年の一学年は例年にも増してその多くがクラブ活動に入部しました。毎日朝早くから夜遅くまでグラウンドや体育館、教室で生徒が活動に打ち込む姿を目にすることが出来ます。爽りの秋を迎え生徒たちは着実に力を付け、諸大会で好成績を残しております。

年末に三十三回目の都大路をめざす陸上競技部では、十月十四日から富山で開かれた国民体育大会に三名が出場しました。少年B800メートルに宮廣(二年)、少年B3000メートルに石村(一年)、少年A5000メートルに空山(三年)が出場し好成績を残しました。

野球部は、1年生中心のチームですが去る7月の高校野球地区大会では、熊野高校に延長十二回の末、惜敗しました。しかし、新チーム結成後、連日の炎天下での猛練習のなかで選手は一周も二周も大きくなり、春の甲子園につながる大会である秋季の広島県大会の出場を果たしました。来年の夏の大会が今から楽しみです。

バスケットボール部女子や女子ソフトボール部も、新チーム結

成後の尾三地区秋季大会でそれぞれ入賞し、秋季の県大会出場を果たしています。

また、美術部・書道部も県の総合文化祭に作品を積極的に出品し、日頃の成果を地域の方に披露し、高い評価を受けています。

紙面に限りがあり、すべてのクラブの活動を紹介できないのが残念ですが、生徒は諸方面で力を十二分に発揮してくれています。同窓生の皆様、日々精進している生徒たちを見守ってやってください。

## 陸上競技部

三年生の空山を軸に戦力も向上してきた中で迎えた今年の県高校駅伝でしたが、三位という結果に終わりました。昨年は第50回記念大会の枠で全国大会出場の機会を得ることが出来ましたが、今年も五年連続出場を夢を叶えられず、同窓生、後援会や地域の方々の期待に応えられなかったことを大変申し訳なく思っています。



健闘空しく全国大会出場ならず

## 野球部

世羅高校野球部は他の13校とともに北部地区に加盟しており、トーナメントで地区代表が決まりました。本校は1回戦で庄原実業を11対2、2回戦では新庄高校を13対3、3回戦では三次高校を10対0と、いずれもコールドで破り決勝に進出、向原高校と対戦しました。9回4対4で決着がつかず、延長10回表、世羅が3点を取り、7対4で優勝しました。この結果11月18日からの県大会に出場します。これも、日頃から地域の方々、野球部後援会の方々からの暖かいご支援があつたからと感謝しています。県大会では、まず1勝を目標に頑張ります。

## 冀北寮増改築工事

現在の寄宿舎は1982(昭和57)年3月、一部二階建(759㎡)として瑞穂農場の位置に新築



され、多くの卒業生、とりわけ陸上競技部の生徒が利用し、世羅高校駅伝部の歴史を見守り現在に至っています。しかし、築後17年が経過していることと、一部屋四人で利用しているため部屋が狭隘なので、多くの関係者のご尽力により増改築工事が実施されることになりました。現在の建物は内部のリフレッシュを行い、居室は二人部屋にするため増築されます。完成後は、快適な寮生活を送ることが出来るものと期待されています。

### 進路指導係

本校の進路指導は、生徒の希望が国立大学から公務員・一般企業まで幅広いものとなっているため、進学・就職受験双方に対応出来る学力を身につけることを目指しています。進学では一年次より早朝・放課後を使った英語・数学・国語の補習授業を実施し、三年次からはそれに理科・社会を加え、遠方の塾や予備校に通わなくても教科学力が向上するように指導しています。また、今年度からは河合塾の衛星放送の授業(サテライト)の受講が可能となりました。一年生・二年生には英語・数学の受験基礎講座、三年生にはそれに加え英語の受験対策講座が受講できます。最近の模擬試験の結果では着実な成果が見え始めています。最近の進学は、少子化の影響もあって大変入り易くなり、以

前の「入れる大学を探して入る」から「入りたい大学を探して入る」という状況が変わって来ました。この大学のこの学部ではどんな勉強、どんな資格、どんな就職が保障されるのかをよく生徒が吟味し志望校を決定せねばなりません。このことは私たち教員の側にも指導の力量が問われていることだと思えます。生徒の適性・能力を見極めた上でどの学校、どの分野がそれぞれの生徒にとって将来的に有望か、生徒の力を伸ばすことが出来るかを判断しなければなりません。今までのように受験学力のみに重点をおいた指導だけでは不十分で、生徒に進路に対する目的意識を早い段階から持たせる指導が必要です。学校としても今年度より実施している「総合的学習の時間」の有効的利用など指導力のさらなる向上を図って行くつもりです。

一方、就職については昨年同様、厳しい状況が続いています。本年度の就職希望者は三十名強ですが、学校に求めている求人は希望している職種や業種がなかなかないという事で、学校を通さず自分で就職先を探すという生徒が少しずつ増えています。学校を通して就職試験を受けた生徒はほとんど決定しています。就職指導としては、二年次より公務員・就職模試を実施し、三年次には模擬試験の解説を中心とした補習授業、面接指導

を行っています。今年度からの取り組みとしては、9月に就職希望者対象に「マナー講習会」を企画し、外部より講師を招き社会人としての心構えや面接試験指導を行ってもらいました。学校としては今後も企業開拓などを精力的に行い、一人でも多くの生徒が希望の仕事に就けるよう頑張っていきたいと思えます。よく進路指導は、「最後は実績・結果」だと言われる。先輩の実績がなければ後輩の目標は低くなってしまいます。学校として誇れる結果がなければ地域社会からの評価もなかなか良いものとはなりません。世羅台地の明日を担う人材の育成のために力を注いで行こうと思えます。同窓生の皆様の今後一層のご支援、ご協力をお願い致します。

## 同窓生より

### 源流は潜やかに

浅野智恵子(昭20女卒。旧姓小野)

本初夏、大田の庄歴史館五周年記念の一環行事として今高野山散策会がありました。郷里に在りながら何気なく見ていた文化財や頌徳碑が物語ることを案内者から聞く好機を得、歴史の重さを考えさせられました。

当然多田道子頌徳碑もその一つで、明治初期に於ける世羅郡女子教育の草分け者であると碑文をな

ざりながら力を入れて語られ、私はうっとり聞き入りましたが世羅高校百周年記念誌編纂当時の苦悩が右往左往して、今はこの石碑が「世羅女子教育の源流地」であると再認識をしましたが、此の多田源流からくねくねしながら大きな川となった要素は何か。又喜びの影に秘む難解物は何かとあの時以来悩みの種であったことも蘇って来ました。

「……明治の頃、女性が必要とされているのは、タダで働く勤勉な労働力云々」と(広島女子大六十年誌抜粋)あり、過酷な評価の中で息を秘めて生きていた女性達に女性だけの学舎を開校することさえ想像を絶することなのに開設当初の生徒数が五十余名とあり、学習意欲の動機・進学の決定は誰なのか。又不就学子女の為に普通夜学舎の運営に手を染めたい世羅の世情が理解出来たら校祖の行動が尚明らかになるのかも知れない

という大それた願望も手伝っています。一方、学校の沿革史には試練が形を変え繰り返し襲ったようで、その度に職員は責任をとって退職したり、病に倒れた教師の魂に支えられ、資力・人力喪失の苦境時を地域の方々の奔走で郡立校として生まれ変わったとあり開校の精神普及を基本に認められて生きる女性」を掲げて郡立時代を再出発し教師・生徒共に努力した成果が、大妻コタカ姉・真野房子姉を代表とする多くの女教師を育て教育の輪を広げて校祖の初念が開花した世羅郡立時代を築いたとある。世羅郡誌・古文献や口述伝承を頼りに気配りをした思い入れのある世羅高校百年史(女学校の部)滴から川の流れにと拡がっていく百年という時間の中で、世情や教育方針から表現に違いはあっても女性教育の基礎にはそれが底に有った部分を拾い読んで、今一度噛みしめてほしいと願わずにはおられません。編集を終え、多くの教育実践者を輩出した「世羅郡立時代の学舎跡」を碑に止めなかつたことが今でも心に痛い傷となつて残っています。

郡立時代の学舎は、時の要請で製帽工場となり、温泉保養所に変わつて昔の面影はありません。小さな碑でも残しておいたら世羅の女性が飛躍を志し実現させた夢ではない現実がより実感となつて此



の今高野山散策順路に加えられて草分け時代の心意気を偲ぶことが出来るだろうと願っています。飛躍しようが、明治維新よりも厳しい終戦の変革の時、分校を開校して若者に再生の希望の道を開かれた有志の方々の実行力も校祖のその継承と受け取れるのでは等々と、自分で作ったかつての痼りを一人舐めながら散策者の談笑に和して深い想いの一時に酔いました。

短時間の散策みちです。

### 級友

## 城智彦氏の死を悼む

溝上 尚美(昭22中卒)

県立広島病院に三十六年間内科医として医療活動に専念し、最後の八年間は病院長として医療行政にもたずさわり、傍ら医学研究にも一生を尽くした城智彦氏(七十一歳・昭和二十年卒)が去る五月十一日肺癌の為に亡くなられました。自分の若き日の理想を文字通り実行し、一生を貫いた人、そして今後もさらに活躍が期待された人物であつただけに惜しまれてならない。私的にも主治医として大



在りし日の城智彦氏

変お世話になつただけに友を失う淋しさはひとしおである。氏の死を悼みここに主として中学校時代・大学時代を共に過ごした者として一文を草して友の冥福を祈りたい。

#### (一)世羅中時代

昭和十六年(一九四一)年入学した我々は希望に燃えてよく学業に励んだ。その年の十二月八日、第二次大戦が勃発する。それまで下駄ばきでも通学する、自由な学園も必ずゲートルを着用して登校する等、戦時一色に包まれた日となる。城君との出会いは同じ一年九学級の生徒の時であつた。初々しい坊ちゃんタイプ、小柄な目の澄んだ少年でゲートルを巻くとタケノコのように、よくずらしていた姿を思い出す。入学当初は教室授業が中心であつたが、二年・三年になるにつれ戦況が厳しく教室外での教練・武道・体育の鍛練教科が中心となり勤労作業も多くなって来た。厳寒の登下校でもズボンの横ポケットは縫い閉じ、手袋着用禁止・四キロの土嚢を背負つての夜間行軍・出征兵士留守宅への稲刈り・暗渠排水等の作業・教室の冬の暖房の為の炭焼き作業等々があつた。我々はその情勢下にあつてそれらを是として学園生活に精一杯の日々であつた。

「子どもは貧寒に育てよ」との諺があるが、今思えば我々の学園生活はまさにそれであり、克己・

忍耐力等はこの時期に養われたのではないかとも思う。

小さくてやさしい友も二・三年生の間に急成長し我々の背丈の小さいグループより脱して丈高くなり、これに比例して成績も級の最上位に進んで行った。これは若くして亡くなられた医師の父の道を希望した友が、人一倍感己勉強した成果であると思う。ある時、潮先生の漢文の時間、白文帳を忘れて来たが、すべてを暗記していた友は他のノートを開いて、堂々と文章を読み上げる程記憶力も抜群であつた。時々我が家を訪れ芦田川畔に寝転んで青空を眺めながら未来を語つたものである。

#### (二)旧制高校時代

四年生時、病氣休学した私は、城君達級友が呉海軍工廠で、時には敵機の機関銃掃射を浴びながら働いた学徒動員のことは私自身は直接体験していない。友は努力の甲斐あつて旧制広島高校へ入学。間もなく原爆で被爆し、一年間休学、食糧難時代に郷里の甲山で、祖父、叔父母の手厚い看護の下で九死に一生を得たことは後で知つた。広島高等師範学校へ進んだ私が、広島市段原の友の下宿を訪ねた時、受験書を傍らに医学部を目指し猛勉強中の緊迫した雰囲気は今でも強烈な印象として残っている。

#### (三)大学時代

蛍雪の功なつて昭和二十四年旧

制九州大学医学部に入学、一年遅れて農学部に入學した私は友と農家の二階の八畳一間で、三年間、共に切磋琢磨することになる。試験期間には夜型の城君、朝型の私と一晩中灯りをつけていて、下宿の小母様にそのことについてよく云われたものだった。

丁度朝鮮動乱の時期で、福岡郊外の板付飛行場より北朝鮮に向かうジェット爆撃機の轟音に悩まながらも週一度、持参の白米を飯盒で炊き薩摩揚げ一枚を頬ばり空腹を満たしながら、将来のこと、人生について語り合つたのも今では懐かしい思い出となっている。

城君の特徴をまとめてみると  
① 理想を貫いた人物  
城君は常々「僕は一度は原爆で失つた命である。助かつて医師となるので患者さんを直接診療する臨床医であると共に、新しい医学研究も一生続けて行きたい。」と理想を熱く語っていた。そしてその理想を一生貫いた人物であつた。

② 勤勉な学究の徒  
理想の実現のためには学力を養わねばと日々実に良く勉学に励んでいた。一例をあげれば単位修得試験がある。友は全科目をマスターする為、大学ノートを一m近く積み上げる程良く書いてまとめた。その為、友の右の薬指は大きなペングダコが突出していた。まとめ方は一生続いたようである。

向学心は大学卒業後の岩手大学(助手・講師)時代、そして広島県立病院へ勤務してからも一貫して変わらなかつたようである。研究面ではアレルギーの専門医として研鑽を深め、広島県特産のカキを打つ人に多いホヤ喘息や製材工場労働者の粉塵喘息の原因の究明、治療法の確立等、県内の研究者(医学・工学面)の中心人物として研究を重ね、診療では県内は勿論、県外の多くの喘息患者の悩みを解消した。これらの業績に対しては、広島医学会賞、九大医学部節丸賞二回、職業アレルギー研究会賞、平成二年には中国文化賞、医療保険関係では厚生大臣表彰、最後に正五位勲三等瑞宝章を叙勲を受ける。

③ ゆとりの人生  
多忙な学生生活の中で余暇を見出し、多方面で趣味を伸ばした。下宿では多くの友人が碁を打ちに訪れた。卒業後も続け有段の先輩とも対等に対局していたようである。週一回は九大茶道部で点前の修練を三年間続け、卒業後も忙中閑あり、お茶をたしなんだ。医学部コーラスでもソフトな澄んだ声で活躍していて、職場でも続いていたようである。卒業後は先輩の主幹する短歌雑誌「リゲル」に度々投稿し医学徒の気持ちを披瀝した。スポーツはテニス、バレーを深くではないが好んでプレーした。

④ 人間愛に徹した人物



大学一年の夏休みであったと思  
うが、友の提案で中学校時代に故  
人となった級友の墓参りの為、帰  
省した際、世羅郡内を自転車で一  
日かけて廻り級友の冥福を祈った。

晩年、県病院を訪れた時、廊下  
を共に歩む際には出会う医師、看  
護婦、患者、労務の人々に分け隔  
てなく必ず自分の方からねざら  
いの声をかける様子など人間愛に満  
ちた態度にいつも敬服の念を禁じ  
得なかった。このことは診療はも  
とより院長時代、付属高等看護学  
校の教育にも生かされていたと思  
う。

⑤ 一生現役

発病後二年で逝った友であった  
が、手術後見舞った折、「これま  
で休みなしで活躍して来たのだか  
ら、もうゆっくりしたらどうか」  
と忠告した私に対して「診療をや  
めよと言ふことは医者をやめよと  
言うことである」と言つて術後半  
年で現場復帰し、診療・医療保険  
審査・研究発表に最後までたずさ  
わった。そして最後に友は「自分  
として為すべきことは精一杯やつ  
て来たと思う。後は神仏にお任せ  
するのみ」と語り、「君にも世話  
になったな」と自ら握手を求め  
たのが友との最後となった。

仏教の本義にも通ずる立派な一  
生であったと思う。友の一生を振  
り返り教えらるることはかりであ  
った。こうした親友を持ち得たこ  
とをこの上なく幸せに思うとも

に、前向きで、他を愛する友の偉  
大さを継承し、自分の余生を歩ん  
でいきたいと願う日々である。

母校に思う

ノーボムンド日伯学園園長  
越知 恭子(昭40高卒、旧姓吉園)



世羅高校ならびにOBの皆様には  
如何お過ごしでしょうか。遙か  
ブラジルからお便りをしています。  
この度、「何か母校のために書い  
て欲しい」との依頼を受け、私の  
人生を少し書かせて頂きました。

県立世羅高校という名前は、私  
にとつて懐かしさと誇らしさを持  
つて返ってくる言葉です。小・中  
学校までは「甲山」という名前だ  
ったのに、高校からは「世羅」と  
いう名前に変わり、入試そして何  
と言つても「駅伝の世羅」は私に  
とつて憧れの高校でした。

私は世羅高を卒業して岡山の国  
立病院付属高看に進学しました。  
しかし、外国に出てみたいという  
希望を持っていたので、もう一度  
大学(英文科)で勉強したいと思  
うようになり、高看を卒業すると  
個室の寮のある東京の国立がんセ  
ンターに就職。手術室勤務で勤務

時間は午後6時までで受験勉強に  
は最高の条件でしたが、受験と勤  
務の両立は生易しいものではなく、  
眠くなる顔と顔を洗つて「毎日の努  
力こそが力になる」という高校の  
先生の言葉を思い出しながら、2  
時まで頑張りました。合格発表の  
日は一人でこっそり見に行きまし  
た。何と念願の法政大学と青山学  
院大学に合格して、気が付くと  
暖かい涙が頬を伝わっていました。  
私は「努力すること」の素晴  
らしさを知ったのです。

そんな頃、ブラジルから医学研  
修生として留学してきた主人と知  
り合い、私はブラジルに永住する  
ことになりました。主人の父は  
「日本語の分かる医者になれ」と  
息子に言ったのです。苦勞の多か  
ったその時代に暖かく家族に受け  
入れられた私は本当に幸せでした。

しかし、大きな試練がやって来  
ました。主人が心筋梗塞になった  
のです。主人が三十九歳、私が三  
十三歳の時で、子供は七歳と六歳  
になったばかり。あまりの若さに  
心臓病とは信じられませんでした。  
何時また発作が起きるか、主人が  
一歩一歩、歩き始めるのですら心  
配で、このまま良くなっても外科  
医として続けることは出来ないだ  
ろうし、一体私はどうやってこの

子供達を育て、ブラジルでどうや  
って生きていったらいいのか、そ  
んなことばかり考えていました。  
そんなある日、主人が突然「今

日はどうしても手術をしに行く」  
と言い出したのです。必死の思い  
で止めましたが、「自分は仕事が  
大好きで、手術中に命がなくなる  
のならそれで本望だ」と言うので  
す。「勝手にする。残された私達  
はどうなるの」と言う想いで一杯  
でしたが、いつかは思い切つて手  
術をしなければ、これからずっと  
外科医として働けなくなつてしま  
う。神に祈るしかないと思ひ返し  
ました。主人の命を懸けた努力は  
実りました。最後まで手術をやり  
遂げたのです。「努力するもの」

には必ず「神の救い」があること  
をこの時、強く実感しました。  
子供が成長するにつれ、私は子  
供達に日本語を教えてみたいと思  
うようになり、一九八六年に友達  
三人でアサイ学園という日本語学  
校を始めました。学園は翌年、国  
際協力事業団の助成を受けてベレ  
ン日本語学校となり、サンパウロ  
に続いて世界で二番目のモデル校  
になりました。しかし、一九九二  
年をピークに日本語学校が減少し  
始め、経営も苦しく教師の待遇も  
改善されず後継者の育成は難しく、  
将来の日本語教育の存続すら危ぶ  
まれるようになりました。そんな  
とき、幸運にもアルゼンチンで行  
われた汎米研修に参加し、初めて  
バイリンガル教育について勉強し、  
日本語教育を残して行くには日本  
語だけを教える学校ではだめだと  
いうことで、三歳からポルトガル

語、英語、日本語の三つの言葉を  
教える日伯学園幼稚園の設立を計  
画しました。しかし、土地の購入  
校舎建設の資金もなく、毎年文化  
祭を行つてバザーや抽選券の発行  
政府機関への助成金の申請を行い、  
三年目に奇跡的に地続きの土地を  
購入することが出来、地元の方々  
の苦しい中からの大変な協力を  
頂き幼稚園校舎を完成しました。  
この時感謝とともに、一生懸命努  
力していれば必ず報われることを  
実感しました。

このノーボムンド日伯学園はモ  
ンテツソリーの教育法で三歳から  
三方国語を勉強してもらおうとライ  
リンガルの学校で、言葉を通して  
外国の文化も学習し、豊かな人間  
性を身につけたグローバルな子供  
達を育てるのが目的です。二十一  
世紀は地球規模で物事を考える人  
材が求められ、そういった人材の  
育成と、学校経営を豊かにして日  
本語教育の存続を可能にする学園  
です。初年度は八十名の予定に対  
して入園児三十名でしたが、今年  
は八十名となり、日本語コースを  
入れると百六十名になりました。  
まだまだ経営は苦しいのですが、  
子供達の将来に満足できるような  
教育が出来るようこれからも努力  
していきたいと思ひます。

人生には色々な障害や困難があ  
りますが、努力している者には必  
ず助けがあり喜びがあるというこ  
とを、自分の人生を振り返り教え



られました。そしてその「努力」を教えて頂いたのが高校時代だと思っております。一生の進路を決定する大切な思春期を育んで頂いた世羅高校の先生方のご恩を忘れることは出来ません。そして人生と同じく学校の長い歴史の中にも色々な困難があるかと思いますが、どうか「学校と生徒と保護者」の相互の努力で困難を喜びに変えて頂き、益々輝く世羅高校にして頂くことを心から祈願しております。

### 生徒会活動の思い出

玉浦 洋明(昭49高卒)

すでに二十年以上も前のことで鮮明には思い出すことは出来ませんが、私の在学当時は、一館だけが鉄筋コンクリートで、他の建物はすべて木造でした。だから他の教室や廊下から来る雑音の中で授業が行われていました。また、夏にはトイレの悪臭が漂うこともしばしばでした。そのような状況の中で最も思い出のある建物は、今の三館の西側あたりに佇んでいた武道場で、柔道をしたり、体育祭の応援練習やモニュメントを夜遅くまで作ったりすることに利用していたことを懐かしく思い出します。また、全国高校駅伝で日本一を目指して日々練習している部員の姿を見ながら、それに応えるため応援団を結成し、本格的な指導者を招いて応援の基本を伝授して

もらい何日も練習したのもこの建物の中でした。

次に、私は生徒会活動に励んでいて、過田、行旨、原田といった生徒会の会長・副会長やその経験者が集まり、生徒会の活性化を図るための話し合いをする中で、「同窓会館」を作ろうということになり、それに向けての活動を開始したのは三年の初めでした。すなわち、文具を始め軽食類まで扱う売店と在校生も同窓生も自由に使用できる多目的ホールを備えた会館ということで、計画書や設計図を作り、学校、PTA、同窓会の団体に理解と協力をお願いするため積極的に動き回りました。勿論、在校生にもその趣旨を説明して私達の願いの実現に向けて協力してもらいました。結局、私達の切なる要望を認識して頂き、私達の卒業が間近に迫った二月頃、プレハブの同窓会館が完成しました。今では一九七七年一月に落成した「八十周年記念館」がこれに代わり、同窓生も在校生も利用しています。そこに至るまでの布石としての役割を私達の同窓会館は果たしたわけですね。

青春の熱い血を湧かせた当時に思いを馳せながら、今の在校生諸君にも勉強以外にも何かを見つけて貴い体験をされることを希望します。また、同窓生の皆さんにも若き日の体験話を披露してください。ことを期待しています。

## 本部だより

### 総会報告

平成11年度世羅高等学校同窓会総会は本年8月20日(日)47名出席し世羅町「玉乃家」で開催しました。小島敏文会長の挨拶に始まり、田辺康嗣校長より学校の現況報告・近畿同窓会松尾千久三会長から支部の状況報告を兼ねて挨拶がありました。

◆総会議事 ①平成11年度事業・決算報告・監査報告・②平成12年度事業計画・予算・規約改正・総会幹事の2学年制等について承認を得ました。

◆報告事項 世羅高陸上競技部・時乗コーチより現況報告が行われました。

◆懇親会 藤井志郎本年度の幹事長の挨拶に続き近畿同窓会神田哲

郎副会長の音頭で乾杯し、引続き懇談が行われました。本年度は近畿同窓会より松尾会長他5名の参加があり、花を添えて頂きました。

### 規約改正について

同窓会活動を活性化させるための提案は従来度々なされて来ましたが、昨年の総会において、規約を改正して組織の実働化を図ることが必要であるという意見が出されました。具体的には役員の中に「常任理事」を新設し、地域に根差した態勢づくりを進めようというものです。これを受けて、会長の委託による規約改正検討委員5名が小島会長を中心に、昨春秋から本年夏にかけて数回の委員会を持ち、他校の同窓会規約なども参考にしながら改正原案を作りました。そして、役員会において若干の修正を行ったものを8月の総会に提案し、満場一致で改正案が承認されました。主な改正点は次の通りです。①(役員)従来の役員に加えて「常任理事約25名」を新設。また、母校現職員1名を「校内理事」として役員に位置付ける。書記を「書記会計」として2名とする。②(役員の選出)「理事」は従来通り各期卒業学年において選出する。新設の「常任理事」は原則として理事の中から地域別・卒業期別等を考慮して会長が選任し、総会において承認を求める。(任期は他の役員と同じく3年で

再任を妨げない)③(任務)理事は各卒業期を代表し、常任理事と連携して会の運営に協力する。(従来、理事は理事会を構成し、同窓会運営の諮問に答え緊急事項についての決議も行うことになって

いました)が、約260名に達する理事に案内状を出しても居住地、その他の関係で出席出来ない理事も多く、名前だけの組織になっている現状にかんがみ、改正規約では、理事の中から常任委員(約25名「原則として」ということで理事以外から選ばれる場合もありま)を選び、これを会長、副会長その他の役員とともに役員会の構成員とすることで従来の役員会と理事会を統合して会議の能率化を図っています。従って、今後は各卒業期の代表である理事の意見を常任理事に十分反映出来るよう連携をとることが課題になります)④(会議)会議は役員会・総会の二つとし、役員会は会長、副会長、顧問、常任理事、校内理事、監事、書記会計を構成員とし、本会運営の企画立案を行う。また、緊急事項について審議かつ決議し、事後の総会において報告する。総会は毎年1回(8月第3日曜日)に行う。ただし、必要のあるときは臨時総会を開くことができる。⑤第10条の弔慰金規定の削除、(会員の死亡を把握することが困難で、これまでも実際に行われていないため)





# 同窓会地域便り

## 東京校友会

東京校友会会長 秦 典三

東京校友会では、会報「とうきよう世羅」(一九九五年創刊)を原則として年二回発行しております。平成十二年四月に、めでたく第十号を刊行しました。その都度、校長、PTA会長など母校や地元自治体の関係者などに寄稿していただき、感謝しております。

第十一号は平成十二年十月に発行の予定で、台湾からの留学生で最後の卒業生となった陳茂榮さん(昭20卒)に「世羅迷懐」という長文を寄稿していただきました。母校の創立百年あまりの歴史のなかには、こんな時代もあったのだと思うと、感懐ひとしおです。

東京校友会の総会は原則として年一回、毎年十一月に開催しております、平成十一年度(第二十一回)は十一月十四日に開催しました。現在東京校友会の会員はおよそ七百人ですが、毎回五・六十人が出席しております。二十一回の総会には来賓として田邊校長、小島同窓会長にご出席いただき、母校の現状や「世羅高校を育てる会」などについて話してもらいました。

平成十二年度の二十二回総会は十一月十九日に予定しており、今回も校長、同窓会長(または副会

長)、それに「世羅高校を育てる会」会長の松山理人さんがご出席下さる予定です。そのころには高校駅伝の県予選の結果もでて、「五年連続出場」といううれしい報告が聞けるものと期待しているところです。(平12・9・20)

## 近畿同窓会

近畿同窓会会長 松尾千九三

シドニーオリンピックマラソンで金メダル優勝の快挙を成した高橋尚子さんは世界の人々に大変な感動とすばらしいメッセージを贈ってくれました。母校においても日夜、監督選手一丸となって猛練習をされていることと感謝致します。高橋さんは「私の今日在るは親をはじめ監督又応援し後押しし支えてくれる皆様のお陰です」と国旗の丸に我が身を包んですばらしい笑顔で表彰台に立つてくれました。その原動力となったのは数々の恩人に対する報恩の精神だと思えます。人間として最も大切なものは恩の教育であると信じます。恩を忘れた結果が今日世界で起こるような現象です。この意味において世界の人々に反省の警鐘を与えてくれたことは大変な成果と云えます。私は新制高校第一回卒(昭25)の松尾千九三と申します。本年六月總會にて会長を引受け致しました。思えば近同会は昭和二十五年初代久保正会長は

じめ諸先輩の熱い想いで誕生し、やがて五十年を迎えます。以来昨年まで陰の原動力として御盡力いただいた故金行諦三様のご縁で育てられ数多くの方々を支えられた私もお陰様で古希を迎えました。恩知らずの私に与えられた報恩の機会と心に定め微力ながら皆様のご指導ご協力を頼りに一歩一歩努力を積んでいく決意です。二十一世紀は「活力ある近同会」を目標に役員幹事一丸となって頑張ります。会員の皆様の益々のご健勝とご活躍を心より祈念しご挨拶いたします。

## 台湾同学会

会長 陳 振茂

去る九月七日、一九四一年入学の王榮銓氏、蔡永昌氏、一九四三年入学の陳恒盛氏(副会長・国会議員)、邱竹友氏、龔誌霖氏、陳茂榮氏の六名が久方に母校を再訪された。五十五年振りに「第二の古里」を訪ねた人もいた。ブラスバンド部が世羅中と現高校校歌を演奏して歓迎会を催す。一行は自分たちの氏名を刻んだ百周年記念碑を感慨深く見つめた後、校長室で変わらぬ世羅の自然、人情について歓談された。その前夜は同窓会、学校主催の合同歓迎会が盛大に催され旧交を温めた。それに先立ち、四日に来甲され、各々の級友の営む霞莊、玉乃家でクラス会五・六の両日には別々にしまなみ

街道、宮島、道後を見学しました。級友の墓参等を果たし、翌日には級友と別れを惜しんで世羅の地を去られた。後日、陳振茂会長より丁寧な感謝文とまた別に鳥取地震を気づかった見舞状も頂いている。



記念碑前での歓迎風景

## 呉支部

呉市に世羅の香りと熱気

呉支部長 杉山 弘子

平成九年五月、八十五名の会員中三十五名の参加で、世羅高同窓会呉支部が誕生しました。「母上様は幼馴染みなんですよ。」「○○さんの従兄弟さんですか。」

等々、性別年齢を超え、世羅の空気で育った同志が、興奮の渦と化した中で固い絆で結ばれました。そして今年五月、第四回呉支部総会。田邊校長、小島会長、村上陸上部監督、事務局から守光教諭の四氏をお迎えして、地域に開かれた世羅高教育の実践状況や、教

育正常化への具体的な取り組み等、じっくり拝聴できました。緊張した総会後の懇親会では、懐かしい世羅弁が飛び交い、会場一杯に世羅の香りが漂い、熱気が時を忘れさせました。祈る母校発展

## 福山支部

代表 平林 光司

福山市周辺には高校初期(昭23(33年)の十年間約八十名ばかりの会員がいますが、うち二十八名が十一月十一日市内に集まって同窓会を催しました。約二時間ばかりなごやかな交歓会で懐かしい当時・現在の母校への想い等、話に花が咲き話題が尽きませんでした。明年も開催を約し。散会しました。

## 編集後記

同窓会報第二号をお届けします。紙面の都合で同窓生皆様の満足を充たしていかないかと思いますが、本紙を通して母校の現状や、同窓会の動向などを知る上での一助になれば幸甚に思います。

「同窓会報」は年一回の発行ですが、かかる経費は同窓会費でまかなっているのが実情です。しかし、第三号からは主に同窓生有志の広告代を以て運用することになりました。諸般の事情をご賢察の上、ご協力くださいますようお願いいたします。

編集委員一同